

# AMEBRIETO

N-ro 164  
町田エスペラント会  
Esperanto-klubo de Maçida

## Amuza Kunveno のお知らせ

日時 : 6月2日(土) 13:30~16:45  
場所 : 町田市生涯学習センター 6階 学習室3・4  
内容 : 講演、歌、オカリナ演奏、ゲームなど

ゲストにイスラエルから来日中の青年、ランさんをお迎えする予定です。  
日本をあちこち移動しているため、変更になる場合もあります。

<ランさんから届いた自己紹介文>

Mi nomiĝas Ran (ラン).

Mi estas viro kaj havas 29 jarojn. Mi estas vegana.

Mi estas socia scienca studento (politika scienco kaj komunikado, kaj poste mi planas studi videoludoj desegnado) el Israelo. Mi esperantiĝis antaŭ preskaŭ du jaroj kaj duono. Mi flue parolas la anglan kaj denaske parolas la hebrean, kaj nun mi lernas la japanan kaj la nederlandan.

Krom lerni lingvojn mi ankaŭ ŝatas vojaĝi en la naturo, konatiĝi kaj amikiĝi kun novaj homoj de diversaj kulturoj, naĝado, rultabulado, fotografarto teknologio kaj scienco, videoludoj, muziko ktp.

Mi alvenis al Japanio en la 20a de Marto, kaj mi daŭros vojaĝi en Japanio ĝis la mezo de Junio (17a de Junio certe estos mia lasta tago en Japanio ĉar mia turista permesilo finiĝos en ĉi tiu tago).



2018年5月

全アメリカエスペラント大会がキューバの首都ハバナで行われることを UEA の機関誌「エスペラント」で知り、参加することを決めました。日本から遠い国のためか日本からの参加者は2名でした。私は2010年のハバナでの世界大会に参加したが、キューバの人たちと直接話す機会もなく、キューバを旅行した、という実感が全くありませんでした。ですから、今回の参加はキューバの様子を自分の目で確かめることが目的でした。

## 1 キューバってどんな国

カナダ（トロント）経由の飛行時間は約17時間だった。到着したハバナは2月の日本の寒さとは程遠い暑さ（昼は30℃くらい）だったが、キューバの人に言わせると冬だから寒い、という言葉に驚いた。確かに夜も更けていくと20℃くらいになった。地図で調べると北回帰線より少し南に位置する。台湾南部の高雄とハバナはほぼ同じ緯度である。細長い国土だが南北に長い日本と違って東西に細長く伸びている。全長は約1250km、幅は最大で190km、面積は日本の本州の約半分という。カリブ海最大の島国で、北東にバハマ諸島、東にハイチ、南にケイマン諸島とジャマイカ、西にメキシコのユカタン半島がある。

キューバについての私の知識はカストロとチェ・ゲバラの率いる革命軍が当時の政権を倒した後、アメリカとは険悪な関係になったこと、それに伴い旧ソ連と接近したことによりキューバ危機を招いたことだ。その後のアメリカによる経済制裁によって厳しい経済状態に陥ったが、旧ソ連との交流に助けられていたが旧ソ連の体制崩壊であまり期待できなくなったようだ。今は中国からの援助が大きく観光バスは中国製であった。ロシアとは今でも交流があるようだ。航空機はまだ、ロシアと関係が良かったウクライナから購入しているが、先のクリミア半島の併合後は航空機の故障、部品の交換などができないので国内での飛行運航は当てにできない、という話は興味深かった。（この話は大会後、大学で歴史を教えている方から聞いた）

2010年に訪ねたときはハバナ旧市街の建物は今にも崩れ落ちそうな状態であったのが今は少しこぎれいになっていて、店には商品が以前よりずっと多く並んでいた。見た目には経済状態が良くなっているように思えた。地元のエスペランティストの話では2011年から市場経済を取り入れ、個人が収益を得ることができるようになった、ということを知った。ちなみに私が宿泊したところは個人経営の旅館（いわゆるゲストハウス）であった。それによる弊害があるようだ。例えば、国家公務員の医師よりタクシードライバーの方の収入が多い、などを例にあげていた。（これは、外国からの参加者の食事や大会後遠足のお世話していた方の話である）

## 2 全アメリカ大会 La 9-a TutAmerika Kongreso de Esperanto

### Kongresa temo

#### “Lingvaj kulturoj: edukado por daŭripova evoluo en la Amerikoj”

キューバ政府の後援を得ていた開会式では、文化副大臣の挨拶、大会委員長と続いた。また、UEAとTEJOを代表して若い人から祝福のメッセージがあった。そのあと、各国のエスペランチストからのメッセージをとるので、壇上で簡単な祝福のメッセージを送った。開会式の様子が国営テレビで流されたことを翌日知った。



キューバではエスペラント活動は政府に認められているようで、国からの財政支援があるという。郊外にあるが、3階建ての立派な建物に本部があった(スペイン語を教える機関との共用らしい)。そこには、調理などの仕事に従事する人を何人か見かけた。こんな形で国民が働くところを提供しているのだろうか。国民の8割が公務員というのも理解できる。

参加者はキューバのエスペランチストが多数を占めていた。南北アメリカのキューバ以外からの参加者は私の予想をはるかに下回っていた。名簿上ではブラジル1、カナダ2、コロンビア2、メキシコ2、ニカラグア1、アメリカ7だが、コロンビアからの参加はなかった。

大会の番組はほぼ、世界大会と同じくらいの規模で行われた。私は第43回AMO-Seminario(AMO=Aktivula maturiĝo)に参加した。この分科会はエスペラント運動を支えるエスペランチストたちをよりよく育成するためにUEAが今取り組んでいる戦略の一つである。すでにあちこちの国で実施されている。このことを機関誌「エスペラント」で読んでいたのでどのように行われるか知っていたので参加した。初めにs-ro Orlando RAOLA(Usono)の講演「Sciu la fakton, forturniĝu de la fantazioj」があった。彼の話の中心はエスペラントが現実の世界からは全く無視されていること、ある意味においては嘲笑の対象にもなっている。その現実から目を背けるな、そしてこの状況を打ち破るためにエスペラントを勉強していることで、あるいは広めるために活動していることで輝いているのを外の世界の、まだエスペラントのよさを知らない人たちにアピールしよう、という内容であった。新しい観点からの話に引き込まれて聞き入った。そのあとで、話に共感を覚えたことを彼に伝えるために話しかけた。そのとき、彼は私が日本から参加したとわかって、だいぶ前に京都大学に留学していた時、奈良で経験した言葉に関するエピソードを語ってくれた。それは、彼は日本語で「・・・に行く方向はどっちですか?」というもので、その時に対応した日本人は「I cannot speak English.」と答えた、というものである。日本人は外国人とみればどの人も英語を話す、という錯覚に陥っている、という内容であった。日本に来た外国人がよく経験することで、テレビなどで取り

上げられているので、最近では日本人でも自覚しているのではないかと考える。ちなみに彼は現在、アメリカに住んでいるが出身はキューバで、今はアメリカの大学の先生だそうだ。

セミナーは参加者をグループに分けてクラブの運営をどのようにしているかについて意見交換をした。また、クラブ員の交流をはかるための方法についての話もあった。ゲームを通して実技の研修が行われた。この分科会でもキューバ以外の若いエスペ란チストと知り合うことができた。アメリカの **s-ro Andy** だ。シカゴで若者にエスペラントの広報、宣伝をしながら仲間を増やしているという。これは AMO の世話人であり、大会委員長の **s-ino Maritza GONZALEZ** から聞いた。この分科会に参加することによってキューバの人と交流ができた。ほんの少しキューバのエスペラント事情も知ることができた。

(大会後の遠足でイタリアの男性と話をする機会があった。そこで、彼は、労働者といわれる人たちにエスペラントを教えていて、これこそがエスペラントを広めることが必要な人々である、という考えから活動をしている男性にも会った。)

### 3 その他のプログラム

大会には楽しめるプログラムが多かった。キューバの人たちは夜の番組で歌い、踊りながら楽しんでた。歌、朗読、ギターを弾きながら歌うなど多彩な芸が披露された。催し物の中で一番印象に残っているのが **Emelina Cundiamor** という劇である。 **Emelina** という女性の結婚から破局するまでの



葛藤を一人芝居で行われたものである。 **Emelina** は白人と黒人の混血 (mulatino という) で、結婚前は、君はきれいだ、とかスタイルが素晴らしいとチャホヤしてくれた夫は年数がたち、その容姿が崩れてきた妻をほったらかし、そのうえ家庭の雑事をすべて任せっきり。こんな生活に妻が見切りをつけるまでの葛藤の様子を若い女性の **Eugenio HERNANDEZ Espinosa** が演じた。この劇のためにエスペラントのセリフを覚えた、というのが発音がきれいで内容もはっきりと聞き取ることができた。アマチュアだと聞いたが演技力も素晴らしかった。今、キューバで最も実力ある作家のうちの一人の脚本であった。もう一つはエスペランチストたちの素人集団の芝居だ。9歳の男の子に生まれた時からエスペラントを教えて育てているというエスペランチストのお父さんの話を聞いて見に行った。いわゆる **denaska esperantisto** が子役として出演したからである。9歳の子であるが私の質問にもハッキリと文法において正しいエスペラントで答えてくれた。9歳の子の初舞台に立ち会うことができた。

大会後、ほかの外国人参加者とともに観光を楽しんだ。地方のエスペランチストとの交流とトリニダード、サンタクララに住むエスペランチストの案内でその町の歴史に触れることができた。これについては機会があれば報告したい。

(この大会中、担当の方々にたいへん、お世話になったことを感謝します。)

(resumo) Mi sufiĉe ĝuis la atomosferon de Esperantujo “en manĝejoj, fakkunsidoj kaj aliaj lokoj” en Kubo. Post la Kongreso mi turismis en la okcidenta parto de Kubo, gvidate de kuba esperantisto, s-ro Alberto F. Calienes klarigis veran situacion en Kubo sen sia opinio. Tio donis al mi favoran impreson. Kaj mi tre dankas lin kaj aliajn.



### 新入会員自己紹介

Saluton!!

私は、金子孝枝と申します。

S-ino Ueno より月二回の講習を受けて2年余りになりますが、覚えるのが困難で忘れるのは天才的で進歩がなく、困った生徒で申し訳なく思っています。

厚木市 飯山に住んで45年。独身です。☺関係ないですね。

私は高校生の頃、基礎知識だけ学んだ事がありましたが、**Dankon !!**しか覚えていませんでした。4年ぐらい前、厚木市の生涯学習講座にてエスペラント語をみつけて、呆け防止の為に申し込み、**S-ro Koyama**に出会いました。小山先生のご都合で、上農先生へとバトンタッチされました。エスペラント精神の元、引くに引けない現状です。

お手柔らかに、宜しくお願いします。



Saluton!

Mi ĝojas renkonti la membrojn de la klubo de Matida.

Mi prezentos min mem.

Mi estas Ŭatanabe Tomoko.

Mi loĝas en la urbo Atsugi, Kanagaŭa de antaŭ dudek sep jaroj. Mi eksciis Esperanton en la privata lernejo de Atsugi antaŭ ses jaroj kaj eklernis ĝin sub la gvido de s-ro Koyama (Takesi). Nun s-ino Ueno gvidas Esperanton al mi du fojojn en monato. Kaj mi deziras paroli Esperanton, tamen mi nun povas paroli simplan frazon. Mi volas ĝui mian vivon per Esperanto.

Dankon!

## お知らせ

### ★八ヶ岳合宿の日程変更について

合宿の日にちを以下の通りに変更します。

9月1日(土) 13:00 ～ 2日(日) 12:00

講師：藤巻謙一さん(日程の変更は了解済みです。)

1月21日(日)の総会において今年度の合宿を9月8日(土)から1泊と決定しましたが、上記のように変更しましたことをお知らせします。すでに9月の予定を決めてしまった方もおられるかと思いますが、再度、日程の調整をお願いします。ぜひ、たくさんの方々の参加をお待ちしております。

合宿の詳細については、次号のAMEBRIETOでお知らせします。

(合宿担当 上農百合子他)

- ★4月25日の日本経済新聞一面「パンゲアの扉～つながる世界 覆る常識 3少数言語の逆襲」の記事の中に、絵文字に関連して木村護郎クリストフ教授(当会会長)のコメントが引用されています。



#### <気候変動—寒冷化対策>

2030年までに小氷河期が来る(20億人が餓死するという説もある)。

<https://goo.gl/BkSMtW>

#### <世界を新型インフルエンザ大流行から守る対策案の提唱>

— 安全な感染性弱毒化生ワクチンの大流行によるもの—

(鳥タイプ新型インフルエンザへの先制攻撃:向かい火作戦)

(3億人が死亡する危険がある)

<http://ccmg.cc.toin.ac.jp/tech/bmed/ft28/INFLDalienJP.pdf>

編集後記：気候変動(寒冷化)、新型インフルエンザ対策案を考えました。  
なお別の不安がいろいろあります。エスペランティストとして希望をもった  
見識・知識・行動力で対策をたてていきましょう。編集 早川吉則

次号165号は、7月発行予定。原稿は永木さん宛に送付してください。